

5.その他

(1) 広域避難対策の前提となる対策について

- ① 理論上最大の南海トラフ地震の場合、まずは震度7の激震を耐えて、避難行動を取れる状況を確認する必要があります。そのため、自宅の耐震化や家具固定などの基本的な地震対策を講じておくことは、避難対策以前の必須の対策となります。
- ② 家族の安否が確認できなかつたり、手間取ったりした場合、避難をためらい、避難行動への着手が遅れてしまう懸念があります。事前に家族間での安否の確認方法や待ち合わせ場所など決めておき、安心して迅速な避難行動に移れる環境を整えておく必要があります。
- ③ 津波からの避難は時間との戦いです。自宅だけでなく、「避難対象区域内」で自分や家族等が利用しそうな場所を事前に共有し、その場所にいるときに地震が発生した場合の避難場所を確認し、避難経路を事前に点検しておく必要があります。また、自宅からの避難を含め、避難場所や避難経路は複数確保しておくことが望まれます。